令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑭安全対策・緊急時対応

◆　今回の研修を通じて一番強く印象に残ったものは、安全指導キーワードの「３つの眼」だった。高い所からの目線、低いところからの目線、水の流れのように物事の変化をつかむ目線で、自分の見る目や聞く耳が変わることを期待し、保育の現場で実践していきたいと思った。どの施設においても、それぞれのマニュアルがあり、それを基に安全対策や緊急時対応の訓練を行っている。もしもの時をいつもに置き替えて、危機管理意識を持ちながら仕事をしていきたい。

◆　児童クラブで遊んでいる子どもたちを見ていて、ヒヤリとする行動がありますが、今回学ばせていただいたように、安全管理、安全教育をしていきたいと思いました。子どもたちと接するときには「３つの眼」や「ちょ・きん・さ」（ちょっとストップ・きちんと説明・さっと再開）の法則を普段から取り入れて事故や怪我を防止していきたいと思います。また、コロナ対策もこれまで通り気を付けて、子どもたちへの支援を行っていきたいです。

◆　子どもたちが安全に過ごせるように、開所時には清掃、点検、職員同士で情報の共有などをしていますが、どうしてもケガや事故が起きてしまいます。大人では気が付かないこともあるので、子どもたちと一緒に危険箇所の点検をしたり、新しい遊具を提供するときには、みんなでルールやどうしたら安全に遊べるのかを話し合う時間を作ったり、子ども自身が自らの安全を守れるように支援、指導をしたいと思う。

◆　一つの大きな事故は、いろいろな不安定要素が絡み合って起こるというが、その通りだなと思った。ちょっとした事故があってもこれくらい大丈夫と思わないことが大事だということが良く分かった。遊び方やルールをしっかり教えたり、危険箇所をチェックしたり、子どもの事故防止をしっかりやろうと思う。いろいろな部分から子どもたちを見て、事故を未然に防ぐ対策ができたらいいなと思う。

◆　子どもたちの遊びの中で、事故防止のために禁止事項が多くなってしまっていることが気になっていました。ただ禁止するだけではなく、子どもたちと一緒に考え、折り合いをつけたルールづくりをしていきたいと思いました。また、事故を防ぐため、危険な時にはきちんと説明して、遊びを再開し、自分自身で身を守る力を身に付けてもらえるような指導をすることの大切さを知りました。